
[成果情報名] イタリアンライグラスの遅播き栽培時における品種選定

[要約] イタリアンライグラスは11月中旬までに早生・中生品種を播種すると播種遅延による減収の軽減が可能である。更に播種が遅れる場合、1月に中生・晩生品種を播種すると8割程度の収量を確保できるが、収穫時期が遅くなる。

[キーワード] イタリアンライグラス、品種、播種期

[担当部署] 畜産環境部・飼料チーム

[連絡先] 092-925-5177

[対象作物] 飼料作物

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

イタリアンライグラスは本県飼料作物作付面積の約5割を占める重要な草種である。

本県におけるイタリアンライグラスの播種適期は10月であり、基本的にはこれが励行されているが、収穫の遅い大豆の作付け面積増加や大型機械作業体系の導入により水稻立毛播きが困難になった等で播種期が遅延するケースが増えており、収量の低下をきたしている。

そこで、イタリアンライグラスについて、播種期の遅延が品種の特性や収量性に及ぼす影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．イタリアンライグラスの刈り取り適期である出穂期は、品種により若干差はあるが播種期が1カ月遅くなるごとに概ね1週間程度遅延する（表1）。
- 2．播種期が遅れると収量低下が著しくなるので、可能な限り10月の適期播種が望ましい（表2、図1、図2）。
- 3．作業の都合上10月播種が不可能な場合、11月中旬までに早生・中生品種を播種すれば1番草の収量低下を軽減できる（表2、図1）。
- 4．12月以降の播種では1番草の収量低下が著しいが、1月に晩生品種を用いると8割程度の収量が確保できる（表2、図2）。但し、収穫適期は10月播種より約3週間遅れる（表1）。
- 5．11月中旬までに早生・中生品種を播種した場合、1，2番草を加えた乾物収量は10月播種とほぼ同等の収量が得られる（表2）。それ以降の播種では2番草の収穫が遅くなり、2回刈利用は限定される（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．「飼料作物奨励品種解説」に記載し、イタリアンライグラスを10月の適期より遅く播種する場合の資料として活用する。
- 2．イタリアンライグラスを遅く播種する場合、収穫時期が10月に播種した場合よりも遅くなるため、夏作の作付計画を立てる際はこのことに留意する。
- 3．12月播種の減収は、冬雑草との競合の影響が大きい。

[具体的データ]

表 1 播種期と1番草出穂期の変動 (平成16年、17年平均)

早晚性	品種	10月播		11月播		12月播		1月播	
		出穂期(月日) 1番草	2番草	10月播との差(日) 1番草	2番草	10月播との差(日) 1番草	2番草	10月播との差(日) 1番草	2番草
早生	好刈	4.16	5.12	+3	+9	+12	+19	+17	+20
中生	好ムシ	4.22	5.24	+7	+9	+11	+11	+16	+16
	イクセント	4.26	5.28	+7	+11	+15	+18	+22	+22
晩生	マンモスB	5.1	6.4	+5	+4	+16	+14	+19	+15
	アキアハ	5.5	6.10	+4	+1	+15	+8	+20	+16

注) 1. 播種期: (10月播)平成16年10月14日、(11月播)11月18日、(12月播)12月15日、(1月播)1月12日
 平成17年10月21日、11月17日、12月21日、1月19日
 2. 播種量及び播種法: 各品種 2kg/10a、散播
 3. 刈取期: 1番草 出穂期～出穂揃
 2番草 出穂期～出穂揃

表 2 1番草と1+2番草合計の乾物収量 (平成16年、17年平均) (kg/10a)

	品種	10月播	11月播	12月播	1月播	平均
1番草	好刈	945	827 (88)	604 (64)	629 (67)	751
	好ムシ	954	921 (97)	583 (61)	704 (74)	790
	イクセント	1034	981 (95)	583 (56)	888 (86)	872
	マンモスB	1101	919 (83)	539 (49)	958 (87)	879
	アキアハ	1130	910 (81)	623 (55)	965 (85)	907
1+2番草	好刈	1342	1289 (96)	948 (71)	979 (73)	1140
	好ムシ	1395	1379 (99)	887 (64)	1128 (81)	1197
	イクセント	1489	1425 (96)	982 (66)	1190 (80)	1272
	マンモスB	1587	1293 (81)	805 (51)	1289 (81)	1244
	アキアハ	1588	1299 (82)	877 (55)	1123 (71)	1222

注) ()の数值は10月播種に対する比率%

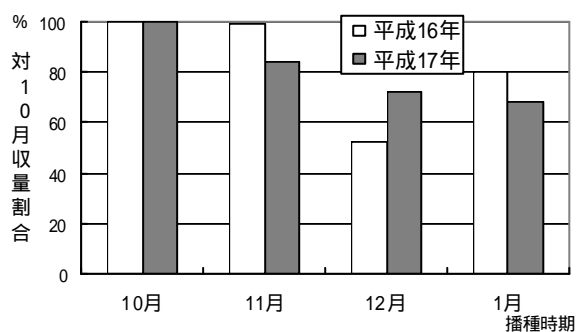


図 1 早中生3品種1番草収量の年次変動

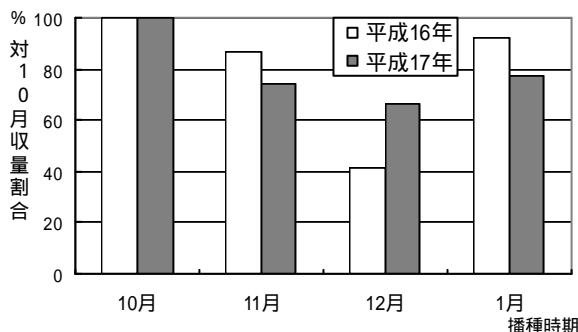


図 2 晩生2品種1番草収量の年次変動

[その他]

研究課題名: 遅播きイタリアンライグラスの安定生産技術
 予算区分: 経常
 研究期間: 平成17年度 (平成15~17年)
 研究担当者: 井上信明、太田剛、馬場武志